

「H29小規模なリゾートホテル」の製図に関する質疑応答

【会員からの質問】

・質問メールをそのままを記載

会員のものです。学科88点の合格発表から製図を勉強している初受験者です。不安でたまりませんが会員の情報を読み一発逆転をねらっています。とても参考になりましたありがとうございます。

質問がございます。

避難距離の記載が一番遠いところの居室から主階段までの入口距離が良いのでしょうか？

また、2階以外にB1F、1Fで避難距離を問われた場合どの部屋(居室?)からの距離でしょうか？

ご回答よろしくお願いたします。

【解答】

避難距離は、建築基準法施行令120条「直通階段の設置」により定められている。

その階の避難階段(入口扉部分まで)から最も遠い居室までの距離となる。

ここで、避難階段は、利用者用階段(主階段)と管理者用階段の両方となる。

つまり、上記質問の「主階段」との解釈は、「管理者用階段」も含むので、両方で考慮するとなり、質問文だけを理解すると間違った解釈に感じる。

⇒研究会は、エスキスで、主出入口を中央に、その直近に主階段、その反対側にて、できるだけ離して管理者用階段を計画することを推奨しているが、これは、避難距離対策にもなっている。

2階以外の階で問われた場合、居室からの距離となる。

これは、2階も同じであり、この避難距離は、「居室」からの距離が条件となっている。

なお、北側道路の場合、常識的な傾斜地南北より1階が避難階となるので、地下1階で避難距離を書かせる出題になる。また、南側道路の場合、地下1階が避難階となるので、1階で避難距離を書かせる出題になる。ここは、2階が避難距離を書かせる出題として、ほぼ確定なので、その他の階で指定されているかをチェックする必要がある(2カ所指定されて1カ所書き忘れ場合は大減点になるので注意したい)。

なお、本建物はホテル単独施設になるので、避難距離は、準耐火構造と仕上げ不燃材料により60mとなる。また、重複距離は、30mである(客室のほか、浴室等も全て同じ条件)。

⇒重複距離は、避難居室から計算して、途中で利用者用階段と管理者用階段とで避難方向が分かれる地点であり、そこまでの距離が避難距離60mの半分30m以下であればよいこととなる。

繰り返しになるが、研究会のエスキス方式、中心に主出入口、その両サイドに利用者用階段と管理者用階段を計画すると、ほぼ重複距離もクリアできている計画となる。

(万一、浴室で重複距離アウトの場合、廊下への非常時開放扉を計画して、クリアさせて下さい。)

